

寛骨臼骨切り術(PAO)を受けられる患者さんへ(1日前入院)

患者ID
氏名

担当医
担当看護師
配布日

	入院:1病日	2病日	3病日	4病日	5病日	6～9病日	10～13病日	14～15病日	16～18病日:退院			
	手術1日前	手術当日(手術前)	手術当日(手術後)	手術後1日目	手術後2日目	手術後3日目	手術後4～7日目	手術後8～11日目	手術後12～13日目	手術後14～16日目		
達成目標	・手術後の経過について理解できる		・循環動態が安定している				・創部の腫脹、浸出液がない ・38.0度以上の発熱がない			・退院指導の内容を理解できる		
			・脱臼の症状がない(随意運動ができる、関節の変形がない、可動域に制限がない) ・深部静脈血栓症の症状(下肢の腫脹、しびれ、下肢の変色)がない ・腓骨神経麻痺の症状がない(背屈ができる、下垂足、しびれがない) ・禁忌肢位の指示が守られている									
	・痛みによる苦痛がない											
内服	・薬剤師が、持参薬および服薬状況について確認します 		・痛み止めを1日3回、毎食後に内服します(7日間) 									
		手術 	・貯血をした場合は、自己血を輸血します 									
		・点滴をします 			・点滴を抜きます							
検査	・採血 ・レントゲン ・身長・体重測定  		・採血 	・採血 			・採血(手術後4日目) ・採血/レントゲン(手術後7日目) 			・採血/レントゲン(手術後14日目) ・体重測定(退院日) 		
処置	・弾性ストッキングを着用します		・フットポンプをつけます				・医師の指示後、フットポンプを外し、弾性ストッキングを脱ぎます					
			・手術室で尿の管を入れます		・尿の管を抜きます							
			・手術室で創部にドレーン(管)を入れます		・創部のドレーンを抜き、フィルム剤を貼ります				・創部のフィルム剤を剥がします			
			・ブレパッツを着用します			・ブレパッツを脱ぎます						
			・心電図、酸素飽和度モニターをつけます	・心電図、酸素飽和度モニターを外します								
食事	・夕食後は、指示された時間から、飲食はできません	・飲食はできません 	・医師の指示後、飲水ができます	・朝食(常食)から開始となります		・制限はありません						
活動・安静	・制限はありません	・病棟内で過ごしてください	・ベッド上安静ですが、看護師の介助で、頭元を上げることができます ・排便はベッド上で行いますので、ナースコールでお知らせください		・ドレーン抜去後、医師と共に車椅子に移ります ・その後は看護師付き添いで、手術した方の足を床に着けないようにして車椅子に移ります 							
清潔	・シャワー浴をしてください	・洗面、歯磨きを済ませてください	・洗面、歯磨きを介助します	・身体を拭きます		・シャワー浴ができます						
リハビリ				・リハビリテーションが始まります 								
説明	・入院オリエンテーションを行います ・医師が手術の説明をします ・手術室の看護師が、手術に伴う確認や諸説明をします ・本用紙を用いて、治療スケジュールについて説明します ・転倒転落予防について説明します ・深部静脈血栓症予防について説明をします ・術前オリエンテーションを行います										・「股関節の手術を受けられた患者さんへ」のパンフレットを用いて、退院後の生活について説明します 	
その他	・同意書は職員にお渡しください ・手足の爪を切り、マニキュアは落としてください ・化粧は落としてください ・深呼吸、床上運動などの術前訓練をします 【必要物品】 ・T字帯2枚・平オムツ2枚 ・曲がるストロー又は薬のみ ・スプーンやフォーク(必要時) ・リハビリテーションで着用するズボンや靴		・手術衣に着替えます ・義歯、コンタクトレンズ、時計、アクセサリー等は外し、各自保管してください。メガネと補聴器は必要時、手術室までつけていきます ・貴重品は、ご自身又はご家族で管理してください ・ご家族は、2階デイルーム・面談室で待機してください。場所を移動される時は必ず職員へお声掛けください		・痛みがあれば鎮痛剤を使用しますので、我慢せずにお知らせください ・深部静脈血栓症予防のため、足首の反り返しを行ってください  							

診療計画、入院期間は現時点での予定です。今後、状態の変化によって変更されることがあります。不明な点がありましたらいつでもお尋ねください。